



富良野医師会 60周年を記念して

富良野医師会 会長 小山内 裕昭

富良野医師会は、明治41年に誕生した上川郡医師会を母体とし、昭和42年に「富良野医師会」として名称を改めて以来、上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村の5町村の医療を支え続けてまいりました。50周年の大きな節目からさらに10年の歴史を重ね、今年、創立60周年という還暦の佳節を迎えることができました。まずは、今日までこの地域の医療の灯を絶やさずことなく、多大なる貢献をされてきた先人達、そして日々現場で尽力されている会員諸先生方の並々ならぬご尽力とご業績に、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

振り返れば、本医師会が誕生した昭和42年当時は、自家用車の普及率も低く、通信環境も現在とは比べものにならない時代でした。それから半世紀以上の時が流れ、医療を取り巻く環境は激変を続けていますが、特に50周年からのこの10年間は、我が国の医療史、そして当医師会にとって、まさに「激動」の連続でありました。

その最たるものが、世界中を混乱に陥れた新型コロナウイルス感染症との闘いです。2020年2月、当医師会の管内でも感染者が確認されたことは、皆様も鮮明に記憶されていることと存じます。未知のウイルスへの不安が渦巻く中、地域内での感染拡大を食い止めるべく、医師会所属の各クリニック・医療機関は、いち早く感染者を見つけ出すための検査や初期対応に奔走してくださいました。さらに、地域の基幹病院である富良野協会の病院においては、速やかに感染病棟を立ち上げ、重症化を防ぐための最前線の医療を提供していただきました。

この未曾有の危機において、特筆すべきは、富良野市におけるワクチン接種の迅速な推進です。富良野市の職員の皆様による多大なるご協力と緻密な連携のもと、毎日300～400人規模という前例のない住民への集団接種を達成することができました。結果として、富良野協会の病院にて管内対象者の9割以上の方々への接種を完了し、最終的には、町立病院・開業医の先生方の協力もあり、地域住民の9割以上への接種を達成するという、全国的にも極めて高い実績を上げることができました。このワンチームでの闘いは、行政と医師会、そして基幹病院と地域クリニックが固い絆で結ばれている富良野圏域だからこそ成し得た、私たちの大きな誇りであります。

10年前の50周年記念誌において、当時の大きな課題として挙げられていたのは、超高齢化社会への対応や、地域医療構想に基づく病床数の確保に対する危機、そして一次救急医療体制の持続可能性についてでした。コロナ禍という大きな荒波を乗り越えた現在、私たちが直面しているのは、それらの課題がより深刻化した姿です。富良野圏域の一次救急医療をはじめ、会員の先生方の献身的なご苦勞によって維持されている「地域の砦」を、今後どのように次代へ継承していくかという問いは、今なお私たちの最大の責務として課せられています。

しかし、私たちはあのコロナ禍において、地域が一丸となればいかなる困難も乗り越えられるという強固な団結力を証明いたしました。地域の医療を守ること、この豊かな富良野の地での生活を可能にする大前提です。これまでの60年の歩みの中で培われた先人たちの知恵と、この10年でさらに深まった連携の力を礎に、私たちは次の10年、そしてその先の未来に向けて、地域のニーズに即した安心・安全な医療提供体制の構築に不断の努力を続けていく覚悟でございます。

終わりに、本60周年記念誌の編纂にあたり、多大なるご労力を注がれた編纂委員の先生方をはじめとする関係各位、また、日頃の過密な診療業務の間を縫って貴重なご寄稿を寄せていただきました諸先生に心からの感謝の意を表し、創立60周年の発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。